

第三学年 学年通信(最終号)

磐田市立豊田中学校

文責 直井弘之

心意気

一・二年 自分を取り巻く人たちの気持ちを察して行動できる生徒になる。
三年 ころろざしを語り、夢に向かって心意気を発揮する生徒になる。
今後 ころろざしを熟成させ、感謝を具現化できる大人になる。

答辞

私たちは本日、豊田中学校を巣立ちます。

豊田中学校の3年間、私たちの心の軸になったのは『志』という一文字です。学年目標の中にも入っている、私たちの心の中心です。私にとって『志』とは、「自分を創り上げて、自分を変える、未来への道筋」だと思っています。私たち一人ひとりが持っている『志』は、目標とは違い、達成するものではなく、自分の心の中にあり続ける、人として生きていくための心の軸だと考えています。先生方、在校生のみなさん、本日は私たちのためにこのような素晴らしい卒業証書授与式を挙げていただき、ありがとうございます。御来賓の皆さま、保護者の皆さま、お忙しい中、お越しいただき誠にありがとうございます。

思い出すのは、3年前。少し大きめの制服を身にまとい、大きな夢のつまったナップランドを背負いながら、中学校というアルバムの1ページを開きました。今日と同じようにこの体育館で、緊張や不安・喜びや期待を感じながら入学を祝っていただきました。その日から今日まで、さまざまな体験や経験を通して、失敗や成功を繰り返しながら、たくさんのことを学ぶことができました。

豊田中学校の自慢でもある『鉄人遠足』。一年生では、初めてのことで不安ばかりでしたが、歩いていくうちに、辛いことよりも楽しさを感じる経験ができました。二年生では、行き先が山から海に変わりました。景色も変わり、目指す場所も変わりました。距離も伸び、精神的にも肉体的にも辛かったことを覚えていきます。けれど、鉄人遠足を行った経験が、自分自身を強くし、友だちとの絆を深めることに繋がりました。三年生では、一位を目指して歩きました。帰り道、チェックポイントでチェックを受けず、長い距離を引き返し、先頭の男子を必死で追いかけたこと。胸が張り裂けそうなくらい走ったこと。足が痛くて涙がほほを伝ったこと。あんなに苦しかったのに、西門からグッシューしたことが、今も心に鮮やかに残っています。本当に素晴らしい経験ができました。

二学期が始まり、すぐに行われた『体育大会』。練習から白熱し、優勝という言葉が、合言葉のようでした。一年生では、雨にたたられ、幾度となく延期。当日もグラウンドは、水浸し。こんな中でも三年生の輝いた笑顔が見られたこと。これが、目指す姿だと思いました。

二年生の時に見た、三年生のムカデリレー。最下位の学級に寄せる応援の声。そして、それに応えようとする姿がとてもまぶしく見え、自分たちが目指す姿が、増えました。いよいよ私たちの最後の体育大会。去年の三年生と同じシーンがありました。みんなで励まし合って全員でゴールした大ムカデ競争。これこそ、先輩の後姿を追い求め、私たちが目指していたものと感激しました。そして、最後に学年みんなで撮った写真は、本当に一生の宝物になりました。体育大会が終わると学校は、『合唱コンクール』一色になりました。合唱は、人の心に残るものだと思います。自分の五感で聴いたとき、初めてそ

の素晴らしさが解りました。三年生の最後の合唱は、どの学級が最優秀賞でもおかしくないので出来栄に仕上げる事ができたこと、本当に幸せでした。順位はつきましたが、勝ち負け以上のかけがえのない価値を、手に入れる事ができました。今年は、最後に中庭で『アンコール』を歌いました。一・二年生の皆さんとともに、体育館とは違う雰囲気の中、あの場所であの歌声を響かせる事ができた一体感と喜びは、何にも変えがたい私たちの思い出となりました。あの経験を創りあげてくれた皆さんに本当に感謝しています。

三年生がスタートしてすぐに行った修学旅行。豊田中学校七十年の伝統を引き継ぐことと新たな伝統を創ることにチャレンジしました。迷うことなく予定通りに見学地を回ることができたタクシー研修。京都・奈良の峠を越え、大阪にも行きました。夜、舞妓さんとも会えました。修学旅行を通して、改めて日本の良さを学び、たくさんの思い出ができました。数々の新しい取り組みに挑戦させてもらった私たち。この時、私たちの学年は、たくさんの人に愛されていたと感じました。修学旅行が終わると私たちの気持ちは、『最後の夏』に向きました。どの部活動も、『最後の夏』に、望む結果を残すため、必死で取り組みました。

私は、女子バレーボール部に所属していました。部の目的は、「愛されるチーム・選手」。目標は、「磐周大会ベスト3」。目的と目標を成し得るためには、たくさんの努力が必要でした。両方を手に入れることはできなかったけれど私は満足しています。競い合うライバルがいたこと、チームで戦えたこと、団体競技だからこそ共に泣き・笑い、その中から真の友情を得たこと。きっと自分の人生にとってかけがえのない大切なものを、この部活動から学んだと思っています。

三年生の一人ひとりに確かな『志』があったからこそ、新しいことにも挑戦しました。『地域貢献活動』は、日頃から支えていただいている地域の方々へ感謝の気持ちを込めた活動でした。この活動で、改めて地域の方々が温かく見守ってくださるからこそ、安全で楽しく生活ができていくことに気付きました。関わらせていただいた多くの方々から、たくさんの「ありがとう」や「笑顔」をいただいたこと、本当に感謝しています。

今まで自分たちの事をお話して来ましたが、ここからは、お願いとお礼です。

私たちは、この三年間「豊田中学、創立七十年の節目の学年」、「後輩に新たな道を創る学年」という言葉を背負い、様々なことにチャレンジしてきました。負担に感じたこと、苦しかったことも多々ありました。逃げ出したくなることもありました。「後輩のために」と言われることに嫌気がさしたこともありました。けれど、やり遂げた時の喜びは、格別でした。先輩たちの創ってくれた伝統を引き継ぎ、そして新たな道と共に後輩に繋ぐ。少しは、そのお手伝いのできたかなと思います。二年生の皆さん、今、そのバトンをお渡しします。

保護者の皆様、十五年間私たちの事を支えてくださり、ありがとうございました。そばにいてくれること、誰よりも味方でいてくれることが、当たり前のような気がして、わがままでした。反抗期の真只中である私たちを、正面から受け止め、愛情たっぷりに育てていただいたこと、家族がいることの幸せやありがたみが、やっと解った気がします。普段は、口にはしていませんでしたが、心の中ではたくさんの「ありがとう」でいっぱいです。これから、たくさん迷惑かけるけれど、もうちょっとだけ支えてください。お願いします。

最後になりましたが、私にとって豊田中学校とは、一生自慢ができる場所。『志』という、生きていくための指針を見つけた場所。今、たくさんの思い出

をアルバムに残し、そのアルバムを完成させて、ここを巣立っていきます。豊田中学校卒業生の一員になれたことに誇りを持ち、中学校3年間での感謝をすべて恩返しできるように。また、私自身の『志』をさらに熟成させることを誓い、答辞といたします。

平成三十年三月十九日

平成二十九年年度 磐田市立豊田中学校 第十三回卒業生

代表 川原花楓

三年主任あいさつ

式場を出た、卒業生と担任が、保護者の皆さまが早く教室に来てくださることを待ち望んでいます。短いお礼で恐縮ですが、お許しください。本日は、お子様のご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私事ですが、三月十六日（金）、私と中村の卒業証書授与式をこの会場で同じ時間に子ども達が、企画してくれました。卒業証書と教員生活38年間の私で一番気に入っている素敵な写真、そして、生徒一人ひとりのメッセージ入りのアルバムと花束を受け取りました。そのメッセージの中に「ありがとうございます」と「大好きです。」という言葉がたくさん見つけることができました。そんな、気持ちを持ってくれた子ども達に本当に感謝し、感激しています。

「私を待っていてくれた生徒」が、この豊田中学校いたこと、そして、三年間そんな素敵な子ども達と関わらせていただいたこと、本当に幸せでした。この三年間、十一名の学年職員、百三十名の子ども達と関わってきましたから、それぞれに感情の違いがあり、考への違いがあり、想いの違いがありました。だから、必ずしも平穏・無事な毎日ではありませんでした。心を痛めたこともありました。でも、いつもそれを助けてくれたのは、「子ども達の素敵な笑顔」と「子ども達の私に対する気遣い」でした。こんな素敵な十五歳に育ててくださった、今ここにいる保護者の皆さまに本当に、本当に感謝しています。

他人の私子ども達に注いだ愛情は、保護者の皆さまが我が子に注ぐ愛情に比べれば、微々たる物だとは解っていても、この3年間、保護者の皆さまの愛情に負けまいと、精一杯、できる限りの愛情を注いできたつもりです。子ども達には、いつも「人は、生きているだけで価値がある」と話してきました。これからの人生で自分を見失いそうになった時、この言葉を思い出してくれたらと思っています。

最後になりましたが、子ども達の卒業アルバムに「君に出会えて本当に良かった。君は、私の宝物。卒業おめでとう」と書かせていただきました。保護者の皆さまにも、お伝えしたい言葉があります。本来なら、お一人お一人、お顔を見ながらこの言葉を伝えたいのですが、それもできかねます。この場を借りてお伝えします。「お父さん、お母さん。あなたに出会えて本当に良かった。あなたは、私の宝物。」三年間、私にお付き合いました。本当にありがとうございました。

